

都市再生整備計画 事後評価シート
中条・平木田地区

平成23年3月

新潟県胎内市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県		市町村名	胎内市		地区名	中条・平木田地区			面積	710ha		
交付期間	平成18年度～平成22年度		事後評価実施時期	平成22年度		交付対象事業費	1,220百万円	国費率	0.421				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路(西中央通り線、中条・胎内線、他13箇所)、公園(鴻の巣公園)、地域生活基盤施設(中条駅前自転車駐車場、中条駅前自動車駐車場、排水機場建設、防災行政無線整備)									
	当初計画から削除した事業		提案事業	地域創造支援事業(総合グラウンド快適利用改修事業、融雪システムリフレッシュ事業、雨水排水統合計画策定事業)									
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業		基幹事業	道路(望城線、中条停車場線、中条停車場線)、公園(北公園)			地権者との協議の結果、他事業との一体的な事業化等により、まち交での実施は取りやめ			指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。			
			提案事業	地域創造支援事業(保育園建設事業、駅前市民交流センター)、まちづくり活動推進事業(西口広場整備研究活動、本町・駅前通り商店街まちづくり活動)			保育園建設事業・関係者および地元住民との協議の結果、既存施設の改修などを行うこととなり、まち交での実施は取りやめ その他:関連事業への移行			指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。			
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし						
		変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	中条駅乗降客数	人/日	2,736	H17	2,470	H22	●	2,482	○	あり なし	自転車・自動車駐車場の整備により中条駅の利便性が向上したことで評価値は目標値を上回った。	平成23年6月
	指標2	道路冠水災害発生回数	回/年	5	H17	0	H22	●	0	○	あり なし	道路整備や排水機場建設、排水路整備によって地区内の雨水処理能力が高まり、目標値を達成した。	平成23年4月
	指標3	地区内商店工場進出数	件	0	H17	10	H22	●	12	○	あり なし	アクセス性や防災性、利便性が向上したことにより地区内への立地が図られ、目標値を達成した。	平成23年4月
	指標4	公園利用者数	人/月	930	H17	1,200	H22	●	840	△	あり なし	● 鴻の巣公園の整備が平成22年12月に完了し、評価基準日では効果が十分に発現しておらず、指標は未達成となるものの、減少傾向に歯止めをかけたことは評価できる。	平成24年10月
指標5	駅前駐車場利用者数	人/月	391	H19	431	H22	●	505	○	あり なし	中条駅の利用者や中条駅周辺市街地への来訪者の駐車場需要にマッチしたことにより着実な利用に繋がっている。これにより、駅前駐車場利用者数は目標値を上回った。	平成23年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	その他の数値指標1					●							
	その他の数値指標2					●							
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 公園を整備したことで快適で安全な利用環境が向上した。 老朽化していた中条駅前自転車駐車場を整備したことでまちの顔である駅前広場全体が一体的となり、景観が向上した。 												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		なし				<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 						
	住民参加プロセス		なし				<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 						
	持続的なまちづくり体制の構築		なし				<ul style="list-style-type: none"> 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった 						

様式2-2 地区の概要

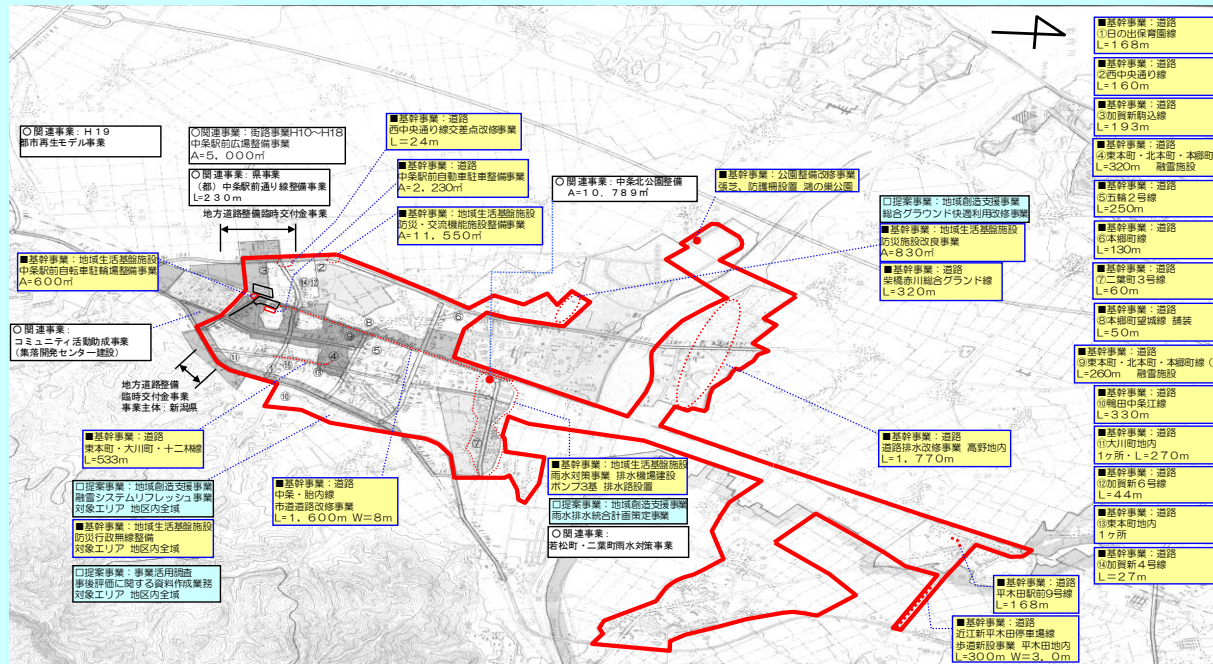
中条・平木田地区(新潟県胎内市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:商業・工業・観光が融合し、住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまちの創造 目標1:駅を起点とするにぎやかな商業観光の拠点づくり 目標2:災害のない安心で快適に暮らせるまちの実現 目標3:生活交通基盤の整備による市民生活の充実と公共交通機関の利用促進		中条駅乗降客数	単位:人/日	2,736	H17	2,470	H22	2,482	H22
		道路冠水災害発生回数	単位:回/年	5	H17	0	H22	0	H22
		地区内商店工場進出数	単位:件	0	H17	10	H22	12	H22
		公園利用者数	単位:人/月	930	H17	1,200	H22	840	H22
		駅前駐車場利用者数	単位:人/月	391	H19	431	H22	505	H22



■地域生活基盤施設



■地域生活基盤施設



■道路 柴橋赤川総合グラウンド線



■地域生活基盤施設 防災行政無線整備

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 中条駅前に自転車駐車場と自動車駐車場を整備し、中条駅利用者や中条駅周辺来訪者の駐車空間が確保された。 道路を整備(交差点改良、歩道新設、舗装など)し、道路交通が円滑となった。 高速道路の無料化に伴い中条駅の利用者の確保が困難な状況が想定されるため、中条駅の利用を促進する必要がある。 融雪システムリフレッシュ事業により市内の融雪用井戸ポンプや送水系統を調査し、効率的な融雪システムの構築に向けたまちの防災機能の方向性が示された。これに基づき道路を整備(排水改善、消雪パイプ設置など)し、豪雨時や豪雪時の道路交通が確保された。 雨水排水統合計画を策定し、市民が安心して生活できる居住空間の創造へ向けたまちの防災機能の方向性が示された。これに基づき排水機場を整備し、道路の冠水被害が軽減された。 防災行政無線を整備し、災害時の情報の通信機能が向上した。 新設される小学校において、防災・交流機能施設整備事業により避難場所を建設したり、調整池を整備したりすることで防災機能が備わった。 防災施設改良事業により災害時の避難所に指定されている総合運動場を改良し、施設の防災機能が向上した。 道路整備により交通環境は大きく向上したものの、道路排水路が未整備となっている区間がまだあるためそれらの整備を進め、水害対策を強化する必要がある。 道路を整備(歩道新設、舗装など)し、道路景観が改善された。 鴻の巣公園の芝生の設置や、総合グラウンド快適利用改修事業による施設の改修により、市民の健康増進の場の環境が向上した。 防災施設や自転車駐車場、自動車駐車場を整備し都市機能が向上した。 鴻の巣公園の利用促進が必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 道路交通の更なる円滑化や都市景観の更なる向上などに向け、市民の生活に欠かすことのできない社会基盤である道路を引き続き整備することで市民の生活の充実を図る。 地区内道路の未整備区間の解消(ハード)や、市民の防災意識の啓発(ソフト)によりまちの防災機能の更なる向上を図る。 高速道路の無料化が今後継続されれば、中条駅の利用減少が悪化することが想定されるため、P&Rの推奨などによって中条駅の利用促進を図る。 未整備となっている道路排水路の整備を進める。 鴻の巣公園においては、地域住民や学校関係者などによる意見等を踏まえ、市民の健康増進に向けた利用促進を図る。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

~~添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測~~

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

添付様式3-① モニタリングの実施状況

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

~~添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理~~

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

添付様式5-② まちの課題の変化

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		指標1「中条駅・平木田駅乗降客数」	指標1「中条駅乗降客数」	目標3「生活交通基盤の整備による市民生活の充実と公共交通機関の利用促進」の達成状況をより適性に評価するため、定義に即した指標の名称に変更した。
			-	指標5「駅前駐車場利用者数」(従前値:391人/月、目標値:431人/月)	目標1「駅を起点とするにぎやかな商業観光の拠点づくり」を定量化するため駅前駐車場の利用増進を目指す指標を新たに追加した。
C. 目標値	●		指標1(従前値:2,828人/日、目標値:2,828人/日)	指標1(従前値:2,736人/日、目標値:2,470人/日)	市内の高校(2校)のうち1校の廃校等により中条駅の利用者が減少することが想定されることから、当初の目標値の達成が困難であるため、減少傾向に歯止めをかけることを目指した目標値を再設定した。
D. その他(目標と指標及び目標値の関連性)	●		【指標4】目標と指標及び目標値の関連性:改修により不便であった公園が市民の憩いとやすらぎの場となり市民の利用増進を目差しおおむね2割増を目標とする	【指標4】目標と指標及び目標値の関連性:改修等により、現在よりも公園が市民の憩いとやすらぎの場となるよう、市民の利用増進を目差しおおむね2割増を目標とする	目標と指標をより結び付けるため、関連性を一部変更した。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	望城線	16	L=120m	0	L=0m	中条駅西口開発事業として他事業との一体的な事業展開を行うため、まち交での実施取りやめ	他事業との一体的な事業として実施するため、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
道路	西中央通り線	16	L=29m	19	L=24m	工事用地取得による事業費の増額、および交差点のコンパクト化に伴う事業量の変更	事業費の変更および軽微な事業量の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。		●
道路	中条停車場線	8	L=250m	0	L=0m	中条駅前通り線整備事業として一体的に施行するため、関連事業へ移行	関連事業への変更であるため、指標への影響は無い。	-	-
道路	中条・胎内線	38	L=1,600m	58	L=1,600m	事業実施に伴う精算変更	事業費の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	高野工業団地線	200	L=1,770m	218	L=1,770m	事業実施に伴う精算変更	事業費の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	近江新平木田停車場線	40	L=600m	50	L=300m	事業実施に伴う精算変更	事業費の変更および整備区間の一部見直しであり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	中条停車場線	50	L=240m	0	L=0m	中条駅前通り線整備事業として一体的に施行するため、関連事業へ移行	関連事業への変更であるため、指標への影響は無い。	-	-
道路	日の出保育園線	13	L=168m	13	L=168m	なし	-	●	
道路	西中央通り線	4	L=160m	4	L=160m	なし	-	●	
道路	加賀新・駒込線	4	L=50m	10	L=193m	事業実施延長の変更および事業実施に伴う精査変更	事業費の変更および整備区間の一部見直しであり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	東本町・北本町・本郷町線	6	L=160m	12	L=320m	事業実施延長の変更および事業実施に伴う精査変更	事業費の変更および整備区間の一部見直しであり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	五輪2号線	5	L=210m	10	L=250m	融雪施設設置位置に伴う事業量の変更、および事業費の変更	事業費の変更および整備区間の一部見直しであり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	本郷町線	5	L=130m	5	L=130m	なし	-	●	
道路	二葉町3号線	1	L=60m	1	L=60m	なし	-	●	
道路	本郷町望城線	1	L=50m	1	L=50m	なし	-	●	
道路	東本町・北本町・本郷町線(2)	4	L=110m	8	L=260m	当初計画区間の隣接区間についても整備を行うことにより事業費の増額、および事業期間の変更	整備区間を変更したものの、事業内容から大きな影響はないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	柴橋赤川総合グラウンド線	11	L=60m	53	L=320m	事業実施延長の変更および事業実施に伴う精査変更	事業費の変更および整備区間の一部見直しであり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	鴨田中条江線	4	L=330m	3	L=330m	事業実施に伴う精算変更	事業費の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	

道路	平木田駅前9号線	0	L=0m	7	L=168m	舗装整備かつ円滑な排水処理を確保し、市民の生活を充実を図るため追加	直接的な指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	大川町地内	0	0箇所 L=0m	17	1箇所 L=270m	冬期間の円滑な道路交通の確保し、市民の生活を充実を図るため追加	直接的な指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	東本町・大川町・十二林線	0	L=0m	18	L=533m	冬期間の円滑な道路交通の確保し、市民の生活を充実を図るため追加	直接的な指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	加賀新6号線	0	L=0m	1	L=44m	歩道空間と排水処理を確保し、市民の生活を充実を図るため追加	直接的な指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	東本町地内	0	0箇所	5	1箇所	冬期間の円滑な道路交通の確保し、市民の生活を充実を図るため追加	直接的な指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
道路	加賀新4号線	0	L=0m	1	L=27m	歩道空間と排水処理を確保し、市民の生活を充実を図るため追加	直接的な指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
公園	鴻の巣公園	10	2カ所 (北公園 / 鴻の巣公園)	6	1箇所 (鴻の巣公園)	北公園については、中条北公園整備として関連事業へ移行	関連事業への移行であり、指標への影響は無い。		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	中条駅前自転車駐車場	30	A=600㎡	29	A=600㎡	事業実施に伴う精算変更	事業費の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	中条駅前自動車駐車場	37	A=2,230㎡	46	A=2,230㎡	駐車スペースの増工による事業費の増額	事業費の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	排水機場建設	582	ポンプ2基 排水路	68	ポンプ3基 排水路	設置ポンプ数の増工および事業費の精査による事業費の減額	設計段階で必要設置ポンプ数を2基から3基へ増工したが、当初の数値目標が0であるため、数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	防災行政無線整備	600	A=680ha	356	A=710ha	事業実施に伴う精算変更	電波拡散範囲の見直しによる事業量の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	防災・交流機能施設整備事業	0	A=0㎡	146	A=11,550㎡	新設される小学校において防災機能を整備するため追加	直接的な指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。		●
地域生活基盤施設	防災施設改良事業	0	A=0㎡	25	A=830㎡	災害時の避難所を改良し、安心して快適に暮らせるまちの構築のため追加	直接的な指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	保育園建設事業	10	建設に係る外構工事 及び遊具設置費	0	-	交付期間内での実施の取りやめ	直接的な指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	-	-
	駅前市民交流センター	92	400㎡	0	0㎡	コミュニティ活動助成事業として関連事業へ移行	関連事業への移行であり、指標への影響は無い。	-	-
	総合グラウンド快適利用改修事業	15	800m	19	289m	事業量の変更および事業実施による精算変更	事業費の変更および整備内容の一部見直しであり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
	融雪システムリフレッシュ事業	5	融雪用井戸ポンプ 揚水能力調査他	5	融雪用井戸ポンプ 揚水能力調査他	なし	-	●	
	雨水排水統合計画策定事業	10	45ha	5	45ha	事業実施に伴う精算変更	事業費の変更であり、指標への影響は少ないと考え、数値目標は据え置く。	●	
事業活用調査	事後評価に関する資料作成業務	0	-	1	資料作成及び まちづくり方策 作成等	事業の追加	事後評価実施に伴う委託費であり、指標への影響は無い。		●
まちづくり 活動推進事業	西口広場整備研究活動	8	3,000㎡	0	0㎡	都市再生モデル事業として関連事業へ移行	関連事業への移行であり、指標への影響は無い。	-	-
	本町・駅前通り商店街まちづくり活動	8	1,000m	0	0m	都市再生モデル事業として関連事業へ移行	関連事業への移行であり、指標への影響は無い。	-	-

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
中条駅前広場整備事業		胎内市表町(東口広場)	78	78	平成10年度～平成18年度	平成10年度～平成18年度	平成18年度に竣工し、駅周辺の賑わいが創出された。		
中条駅前通り線整備事業		胎内市表町	965	965	平成18年度～平成24年度	平成18年度～平成24年度	平成24年度に竣工予定であり、中条駅のアクセス性の向上や駅周辺の賑わいの創出が期待される。		
都市再生モデル事業		胎内市内	0	6	-	平成19年度～平成19年度	住民による検討会が開催され、住民の主体的なまちづくりへの意識が醸成された。		
若松町・二葉町雨水対策事業		胎内市若松町・二葉町	0	300	-	平成21年度～平成24年度	水害に強い快適な都市基盤の構築に向けた取り組みが進んでいる。		
コミュニティ活動助成事業(集落開発センター建設)		胎内市新栄町	0	15	-	平成19年度～平成19年度	平成19年度に竣工し、地域のコミュニティ活動が活性化されている。		
中条北公園整備		胎内市若松町	0	1	-	平成22年度～平成22年度	平成22年度に竣工予定であり、賑わいが創出されることが期待される。		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	見込み	達成度	達成度	あり	なし
指標1	中条駅乗降客数	人/日	-	-	2,736	H17	2,470	H22	モニタリング	●	2,482	事後評価	○		
									事後評価	見込み	●	2,482	事後評価	○	
指標2	道路冠水災害発生回数	回/年	-	-	5	H17	0	H22	モニタリング	●	0	事後評価	○		
									事後評価	見込み	●	0	事後評価	○	
指標3	地区内商店工場進出数	件	-	-	0	H17	10	H22	モニタリング	●	12	事後評価	○		
									事後評価	見込み	●	12	事後評価	○	
指標4	公園利用者数	人/月	-	-	930	H17	1,200	H22	モニタリング	●	840	事後評価	△	●	
									事後評価	見込み	●	840	事後評価	△	
指標5	駅前駐車場利用者数	人/月	-	-	391	H19	431	H22	モニタリング	●	505	事後評価	○		
									事後評価	見込み	●	505	事後評価	○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	自転車・自動車駐車場の整備により中条駅の利便性が向上し、中条駅乗降客数は平成17年度比で約9%の減少に留まり、減少傾向に歯止めを掛けることができた。	なし
指標2	道路整備や排水機場建設、排水路整備によって、雨水処理能力が高まり、道を冠水災害発生回数は平成22年度で0件となり、目標値を達成した。	なし
指標3	中条町商工会資料およびヒアリング調査結果から、道路整備(道路の改良や歩道の新設など)によるアクセス性が立地促進に大きく貢献していることが伺える。	なし
指標4	鴻の巣公園では芝生が設置されたことで新たな活用が検討されており、公園の利用促進に繋がることが期待されるため、利用者数は事業完了1年後に目標値を達成する見込みである。	なし
指標5	駐車場の整備が中条駅の利用者や中条駅周辺市街地への来訪者の駐車場需要にマッチしたことにより、駐車場の利用者数は目標値を約17%上回り、目標値を達成した。	なし

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・公園を整備したことで快適で安全な利用環境が向上した。
- ・老朽化していた中条駅前自転車駐車を整備したことでまちの顔である駅前広場全体が一体的となり、景観が向上した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	総務課、生涯学習課、学校教育課	平成22年9月30日	地域整備課(主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4	指標5					
指標名		中条駅乗降客数	道路冠水災害発生回数	地区内商店工場進出数	公園利用者数	駅前駐車場利用者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見				
基幹事業	道路(西中央通り線)	○	中条駅乗降客数は、	-	道路冠水災害発生回	◎	中条町商工会「新規	○	鴻の巣公園の芝生の	○	中条駅前広場駐車場
	道路(中条・胎内線)	○	自転車・自動車駐車	◎	数は道路整備(排水改	◎	加入者名簿」資料およ	○	設置が平成22年12月	○	は平成19年9月に供
	道路(高野工業団地線)	○	場の整備により中条駅	◎	良など)や排水機場建	◎	びヒアリング調査の結	○	完了予定となることか	○	用が開始され、中条駅
	道路(近江新平木田停車場線)	○	の利便性が向上したこと	-	設、排水路整備によっ	◎	果によると、平成18年	○	ら、評価基準日【平成2	○	の利用者や中条駅周
	道路(日の出保育園線)	○	で評価値は目標値を上	-	て地区内の雨水処理	◎	度以降に地区内に進	○	3年3月31日]時点で	○	辺市街地への来訪者
	道路(西中央通り線)	○	回った。加えて、駅周	-	能力が高まり、H22年	◎	出した商店および工場	○	は事業による効果が十	○	分の駐車場需要にマッチ
	道路(加賀新・駒込線)	○	辺の道路整備による中	-	度で0件となり、目標値	◎	のうち9割以上が道路	○	分に発現していないこ	○	したことにより着実な利
	道路(東本町・北本町・本郷町線)	○	条駅へのアクセス性の	-	を達成した。	◎	整備(道路の改良や歩	○	とが想定されるため、	○	用に繋がっている。こ
	道路(五輪2号線)	○	向上や、排水機場整備	-	また、中条の日最大降	◎	道の新設など)による	○	指標は未達成となる予	○	れにより、駅前駐車場
	道路(本郷町線)	○	による雨水処理能力の	-	水量の推移を見てみる	◎	アクセス性を考慮した	○	定である。一方、計画	○	利用者数は目標値を
	道路(二葉町3号線)	○	向上、融雪システムリ	-	と、平成17年度に発生	◎	としており、道路整備に	○	期間以前は減少傾向	○	上回った。
	道路(本郷町望城線)	○	フレッシュ事業や道路	-	した冠水およびオー	◎	より地区内への立地が	○	にあった利用者数は約	○	また、道路整備による
	道路(東本町・北本町・本郷町線(2))	○	の融雪機能整備による	-	バーフロー時の月別日	◎	図られ、商店および工	○	830人の推移を維持し、	○	駅前駐車場へのアクセシ
	道路(栄橋赤川総合グラウンド線)	○	降雪処理能力の向上	-	最大降水量は、他の月	◎	場の進出数が増加し	○	下げ止まりに寄与した	○	の向上や排水機場の
	道路(輪田中条江線)	○	によって、豪雨時や豪	-	より比較的多くなってい	◎	た。また、災害対策(防	○	ことは評価できる。	○	建設、融雪システムリ
	道路(平木田駅前9号線)	○	雪時の円滑なアクセス	-	ることが分かる。一方、	◎	災施設・避難施設の整	○	なお、鴻の巣公園に	○	フレッシュ事業による豪
	道路(大川町地内)	○	交通網が確保されたこと	-	事業期間中となる平成	◎	備など)によるまちの防	○	ついては、新たな活用	○	雨時や豪雪時の円滑
	道路(東本町・大川町・十二林線)	○	とも間接的に貢献して	-	18~22年度の月別日	◎	災性、駅前整備(駐車	○	が検討されており、公	○	なアクセス交通網の確
	道路(加賀新6号線)	○	いるものと考えられる。	-	最大降水量において	◎	場や駐輪場の整備)に	○	園の利用促進が図られ	○	保も、駅前駐車場利用
	道路(東本町地内)	○	また、まち交による効	-	も、平成17年度の冠	◎	による利便性も地区内へ	○	ることで利用者数は事	○	者数の増加に寄与した
	道路(加賀新4号線)	○	果により指標は改善し	-	水およびオーバーフ	◎	の立地促進に貢献して	○	業完了1年後に目標値	○	ものと考えられる。
	公園(鴻の巣公園)	-	たものの、高速道路無	-	ロー発生時の推移を記	◎	いるものと言える。	○	を達成する見込みであ	○	る。
	地域生活基盤施設(中条駅前自転車駐車場)	◎	料社会化実験を実施し	-	録しているものの、冠	◎		○		○	
	地域生活基盤施設(中条駅前自動車駐車場)	◎	なかった場合には、効	-	水およびオーバーフ	◎		○		○	
	地域生活基盤施設(排水機場建設)	○	果がさらに発現してい	-	ローは発生していない	◎		○		○	
	地域生活基盤施設(防災行政無線整備)	-	たことが想定される。	-	ことから、地区内の雨	◎		○		○	
	地域生活基盤施設(防災・交流機能施設整備事業)	-		-	水処理能力は向上した	◎		○		○	
地域生活基盤施設(防災施設改良事業)	-		-	ものと言える。	◎		○		○		
地域創造支援事業(総合グラウンド快適利用改修事業)	-		-		◎		○		○		
地域創造支援事業(融雪システムリフレッシュ事業)	○		-		◎		○		○		
地域創造支援事業(雨水排水統合計画策定事業)	-		○		◎		○		○		
事業活用調査(事後評価に関する資料作成業務)	-		-		◎		○		○		
中条駅前広場整備事業	◎		-		◎		○		○		
中条駅前通り線整備事業	◎		-		◎		○		○		
都市再生モデル事業	○		-		◎		○		○		
若松町・二葉町雨水対策事業	○		◎		◎		○		○		
コミュニティ活動助成事業(集落開発センター建設)	○		-		◎		○		○		
中条北公園整備	-		-		◎		○		○		

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
-：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	高速道路の無料化に伴い中条駅の利用減少が悪化することが想定されるため、P&Rなどを活用した利用促進を図る必要がある。	社会基盤の整備を引き続き促進し、防災に対する安全性を向上させる必要がある。	市街地の利便性を向上させ、地区内への立地促進を図る必要がある。	グラウンドゴルフなどのイベントによる新たな活用により公園の利用促進を図る必要がある。	中条駅を活用したP&Rにより中条駅と併せた駐車場の利用促進を図る必要がある。
-------	--	---------------------------------------	---------------------------------	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	総務課、生涯学習課、学校教育課	平成22年9月30日	地域整備課(主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
駅周辺における駐車空間の確保および道路交通の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> ・中条駅前に自転車駐車場と自動車駐車場を整備し、中条駅利用者や中条駅周辺来訪者の駐車空間が確保された。 ・道路を整備(交差点改良、歩道新設、舗装など)し、道路交通が円滑となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路の無料化に伴い中条駅の利用者の確保が困難な状況が想定されるため、中条駅の利用を促進する必要がある。 	
水害に強い社会基盤の整備および効率的な情報伝達の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・融雪システムリフレッシュ事業により市内の融雪用井戸ポンプや送水系統を調査し、効率的な融雪システムの構築に向けたまちの防災機能の方向性が示された。これに基づき道路を整備(排水改善、消雪パイプ設置など)し、豪雨時や豪雪時の道路交通が確保された。 ・雨水排水統合計画を策定し、市民が安心して生活できる居住空間の創造へ向けたまちの防災機能の方向性が示された。これに基づき排水機場を整備し、道路の冠水被害が軽減された。 ・防災行政無線を整備し、災害時の情報の通信機能が向上した。 ・新設される小学校において、防災・交流機能施設整備事業により避難場所を建設したり、調整池を整備したりすることで防災機能が備わった。 ・防災施設改良事業により災害時の避難所に指定されている総合運動場を改良し、施設の防災機能が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備により交通環境は大きく向上したものの、道路排水路が未整備となっている区間がまだあるためそれらの整備を進め、水害対策を強化する必要がある。 	
都市景観の向上および定住人口の促進、市民の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ・道路を整備(歩道新設、舗装など)し、道路景観が改善された。 ・鴻の巣公園の芝生の設置や、総合グランド快適利用改善事業による施設の改修により、市民の健康増進の環境が向上した。 ・防災施設や自転車駐車場、自動車駐車場を整備し都市機能が向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鴻の巣公園の利用促進が必要である。 	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	道路環境の更なる向上	道路交通の更なる円滑化や都市景観の更なる向上などに向け、市民の生活に欠かすことのできない社会基盤である道路を引き続き整備することで市民の生活の充実を図る。	・道路整備
	防災機能の更なる向上	地区内道路の未整備区間の解消(ハード)や、市民の防災意識の啓発(ソフト)によりまちの防災機能の更なる向上を図る。	・道路排水路の整備 ・市民の防災意識の啓発

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	中条駅の利用促進	高速道路の無料化が今後継続されれば、中条駅の利用減少が悪化することが想定されるため、P&Rの推奨などによって中条駅の利用促進を図る。	・中条駅の利用促進(P&Rなど)
	雨水処理能力の向上	未整備となっている道路排水路の整備を進める。	・道路排水路の整備
	公園の利用促進	鴻の巣公園において市民の健康増進に向けた利用促進を図る。	・地域住民や学校関係者などによる意見交換

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	中条駅乗降客数	人/日	2,736	H17	2,470	H22	確定 見込み ●	2,482	○	あり なし	→	平成23年6月	「東日本旅客鉄道株式会社乗車人員調査」を用いて、確定値を把握する。	
指標2	道路冠水災害発生回数	回/年	5	H17	0	H22	確定 見込み ●	0	○	あり なし	→	平成23年4月	地域整備課の所有データを用いて、確定値を把握する。	
指標3	地区内商店工場進出数	件	0	H17	10	H22	確定 見込み ●	12	○	あり なし	→	平成23年4月	中条町商工会「新規加入者名簿」および地区内へのヒアリングにより平成22年度中に来店した件数を把握する。	
指標4	公園利用者数	人/月	930	H17	1,200	H22	確定 見込み ●	840	△	あり ● なし	→	平成24年10月	観光動態調査の基礎調査資料を用いて、確定値を把握する。	
指標5	駅前駐車場利用者数	人/月	391	H19	431	H22	確定 見込み ●	505	○	あり なし	→	平成23年4月	「駐車場利用者台数年報」を用いて、確定値を把握する。	
その他の数値指標1				H			確定 見込み				→			
その他の数値指標2				H			確定 見込み				→			
その他の数値指標3				H			確定 見込み				→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・事業実施による効果を的確に分析、評価するため、市内の高校が廃校となるなどの外部環境の変化に伴い指標「中条駅乗降客数」の数値目標を見直した。	・指標は事業による効果を捉えること、かつ目標の達成状況を定量化することが重要となるため、指標に影響を与える外部環境の変化に対応して数値目標を見直す必要があると考える。
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・指標で用いたデータは定期的に計測されているものであるため、交付期間終了後も事業による効果を把握することが比較的容易にできる。	・交付終了後の継続的な指標の計測が事業効果の高度な分析に繋がる。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		・常に住民が意見しやすい市政運営が重要であるとする。
	うまく いかなかった点	・計画期間中、事業の進捗状況などを定期的にHPや広報等にて市民へ公表することで、住民からより多くの意見や理解が得られた可能性がある。	

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年11月1日から平成22年11月15日まで公表	平成22年11月1日から平成22年11月15日	担当課を窓口とし、郵送、持参、ファクス、Eメールで意見を受付	地域整備課(主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	市報に地域整備課窓口およびホームページで原案を公表している旨を掲載	平成22年10月15日号に掲載	平成22年11月1日から平成22年11月15日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	地域整備課の窓口での閲覧	平成22年11月1日から平成22年11月15日まで公表	平成22年11月1日から平成22年11月15日まで公表		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	今村洋一(新潟大学工学部建設学科助教)	平成22年11月24日	地域整備課(主管課)	胎内市都市再生整備計画事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	中条町商工会青年部 部長 中条青年会議所 地域力創造委員会 委員長				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標5「駅前駐車場利用者数」について、イベント開催日などの特異値との比較をした方が効果の程度が分かりやすいとの意見があった。 ・定性的な効果発現要因について、老朽化していた中条駅前自転車駐車を整備したことでまちの顔である駅前広場全体が一体的となり、景観が向上したことを追加してはとの意見があった。
	実施過程の評価	・住民参加プロセスの実施状況について、記載されている事項は他事業における実施内容であり、実施状況を再度確認し、記載の是非を検討すべきとの意見があった。 ・持続的なまちづくり体制の構築状況について、記載されている事項は組織の設立を検討している段階であり、無理に記載する必要はないのではないかと意見があった。 ・意見に対し、再度実施内容を確認し、記載を検討すると回答した。
	効果発現要因の整理	・指標2「道路冠水災害発生回数」について、個別の道路事業内容を確認し、排水改善等を行った事業箇所に関しての具体的な要因を整理すべきとの意見があった。 ・指標3「地区内商店工場進出数」について、鴻の巣公園と商店街の関連性がほとんど無いことと、計画策定の段階では効果が出ないことの2点を踏まえ、指標への貢献度を再整理すべきとの意見があった。 ・事業内容を再度精査し、記載を改めると回答した。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は市民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・鴻の巣公園の利用促進に向けた事業には、長期的な維持管理の観点から地域住民や学校関係者などからの意見聴取を盛り込むべきとの意見があった。 ・今後の整備の参考にすると回答。
	フォローアップ	・フォローアップ計画は妥当であると認められた。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第7回変更)

なかじょう ひらきだちく
中条・平木田地区

にいがた たいないし
新潟県 胎内市

平成22年8月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	胎内市	地区名	中条・平木田地区	面積	710 ha
計画期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度

目標
大目標：商業・工業・観光が融合し、住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまちの創造
 目標1：駅を起点とするにぎやかな商業観光の拠点づくり
 目標2：災害のない安心で快適に暮らせるまちの実現
 目標3：生活交通基盤の整備による市民生活の充実と公共交通機関の利用促進

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 平成17年9月に中条町と黒川村が合併し新しく『胎内市』が誕生しました。新市では都市の機能強化による商工業の活性化と、奥胎内の自然豊かな資源を活用する観光振興により、地域に住む人と商業・工業・観光が一体となった『自然が活き、人が輝く、交流のまち』を目標に掲げ市民誰もが安心して暮らせる新しいまちづくりをスタートしています。
 計画区域は、市の中心市街地としての役割を担うJR中条駅周辺と旧黒川地区にあるJR平木田駅の2駅が玄関口となる胎内市の市街地として商業地域を中心に形成され、地区の中心を貫く幹線道路とこれを結ぶ環状線の中に存在する住居地域と4つの工業地域で構成されたエリアです。
 胎内市の表玄関口としての中条駅周辺地域は、JR中条駅から本町通りまでには幾つかの商店街が連立する市のメインストリートとなっています。当地区では、近年のモータリゼーションによる慢性渋滞や購買動向の郊外化により地区の衰退が見受けられ、地盤沈下の著しい商店街振興と中心市街地の活性化を目指しH2からH15年に掛けて、魅力ある商店街形成と住宅地の居住環境向上を目的に沿道土地区画整理型街路事業を行い都市計画道路本町通り線の整備を行いました。また、JR中条駅前では、平成10年度より駅前の電線類地中化を伴う前面都市計画道路の駅前通り線改築と同時に駅前広場の整備（平成18年度完成予定）を行い、5,000㎡の新しい東口駅前広場の中にバスターミナル、自転車駐輪場を設け交通結節点としての機能強化を図っています。
 これらの事業と駅周辺における土地区画整理事業により、中心市街地や交通結節点の整備がなされコンパクトシティの核が形成されようとしています。交通・商業・防災の各機能を効率的に融合し生活環境の安全をより強固なものにするためには、これら先行事業を活かし次の展開が必要となっています。
 また、合併により旧中条町と旧黒川村の資産を活かし快適でゆとりのある一体的なまちづくりを行うために、次の事項を基本とした防災対策整備と、安全で円滑な交通に配慮した道路や駐車場、憩いの場としての公園など関連したインフラ整備が求められています。
 ○当地区は、都市計画マスタープラン「まちづくりの方針」において一体的市街地形成が位置づけられている。
 ○当地区は、都市計画マスタープラン「公共交通ネットワークの方針」において広域連携の強化が位置づけられている。
 ○新市建設計画「住民生活・都市基盤」において住む人が安心・快適に暮らせるやさしいまちづくり事業として位置づけられている

課題
『道路生活基盤に関する課題』
 ○当市は、路線バスの運行だけではまかないきれない路線があるため乗用車の保有率が高く自動車は生活における必要な交通手段となっており、そのため現在駅前広場では、送迎の車やP&R利用者であふれ不便な状態が続いています。本計画で、自動車駐車場と駐輪場を整備することによって、駅利用者だけでなく買い物客や観光客等の利用も多いに見込まれることから、市街地の活性化や商店街の振興を図る上で重要かつ必要な都市施設となります。
 ○近年の土地区画整理事業により新しい住宅地ができて周辺道路の交通量が増えたことにより、従来の道路では安全で円滑な交通ができなくなり道路の改良が必要となっています。本計画において、道路拡幅を伴う道路改良工事を行うことにより交通アクセスの改善を行う。
『地域防災に関する課題』
 ○宅地化され住宅団地となっている若松町地内では、住宅の建設増加に伴い宅地からの雨水流出が増え降雨強度が30mm/hを超えると道路が冠水し沿線家屋が床上浸水を起こしている。このような集中豪雨による被害を防ぐ施設整備が急務となっている。本計画では、雨水を排出するための排水機場の整備を行うと共に、工業用地内で発生する冠水災害を水路の整備によって未然に防止する。
 ○当市では、山間部から海岸部まで多様な特性をもった地域が点在し災害や有事発生時に、確実な情報伝達手段がないが現在区長や消防団を通じた公衆電話回線による情報伝達を行っているが、実際災害時には、外出しているケースが多く情報の伝達が不確実となっているのが実状である。そのため確実に全市民に効率よく情報伝達を行うため行政防災無線整備をおこなう。
『都市環境に関する課題』
 ○整備が完了した中条駅前通り線については、電線類が地中化され安全で快適な歩行者空間が確保されつつ、景観としてもまちの顔としてふさわしくなっている。未完了となっている次年度以降事業化予定の路線についても無電柱化により歩行者の安全を確保し一体的な景観形成を行うことでまちの顔としての都市景観を向上させてゆく
 ○住む人が健康で快適な生活を営むことが出来る環境を整備することで、定住の促進や市民の健康増進が促される。そのため公園や運動施設の整備改修を行うことでふさわしい環境形成を行う。

将来ビジョン(中長期) 第3次長期計画に基づく都市計画マスタープラン
●暮らしを支える安全で快適な基盤づくり
 生活交通の基盤となる体系的な道路網整備、自転車や歩行者が安全に利用できる歩行者空間などのきめ細かな整備により、すべての人が利用しやすい交通ネットワークづくりを進めます。また、地域バランスや住民ニーズに合った健康・福祉・文化・教育などの公共施設整備、既存施設の有効活用などにより、暮らしを支える快適な基盤づくりを進めます。
●にぎやかな商業拠点づくり
 商業集積が進む国道7号沿線地域では、周辺環境との調和に配慮しながら、まちの活力を象徴するような、にぎやかでまとまりのある広域的な商業拠点づくりを進めます。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
1. 中条駅乗降客数	人/日平均	中条駅を乗降するJR利用者数	駅への利便性と周辺地区への回遊性を高める事により駅利用者の減少傾向に歯止めを掛け、整備後における整備前との差を1割以内にとどめる	2,736	平成17年 2,470
2. 道路冠水災害発生回数	回/年	降雨の排水能力不足による道路冠水回数	排水能力が向上することにより道路・家屋冠水災害は『ゼロ』になり安心した生活基盤が保たれる	5	平成17年 0
3. 地区内商店工場進出数	件	新規に当該地区へ出店した商店及び工場立地件数	駅周辺の整備により市の価値が高められ商業工業の活性化がなされ店舗数及び工場の進出が見込まれる	0	平成17年 10
4. 公園利用者数	人/月	地区内整備公園利用者数	改修等により、現在よりも公園が市民の憩いやすさの場となるよう、市民の利用増進を目指す。おおむね2割増を目標とする	930	平成17年 1,200
5. 駅前駐車場利用者数	人/月平均	駅周辺施設利用者数	駅前広場周辺地域の活性化による、駅前駐車場の利用増進を目指す。1割増を目標とする。	391	平成19年 431

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・目標1: 駅を起点とするに活気ある商業観光の拠点づくり</p> <p>・胎内市の観光、産業の玄関口であるJR中条駅を中心とした交通結節点の機能強化と交通ネットワーク整備のために駅周辺の道路環境改善事業を行い生活交通基盤の充実を図り鉄道を利用して胎内市に訪れる人々に、胎内市の美観や個性を表現する場として駅前を整備し市のイメージアップを図り、工業、商業、観光の振興をはかる</p> <p>・住宅地の郊外展開が進む一方で、中心市街地では人口の空洞化が進行しているため、公共施設整備を行い効率的な利用や高齢化社会に適した生活空間としての役割を踏まえ、当該地域の再生や商店街の存続に向けたソフト面とハード面の取り組みを行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中条・胎内線道路改修事業(基幹事業) ・中条駅前自転車駐車場整備事業(基幹事業) ・中条駅前自動車駐車場整備事業(基幹事業) ・コミュニティ活動助成事業(関連事業)
<p>・目標2: 災害のない安心で快適に暮らせるまちの実現</p> <p>・住民の尊い命と貴重な財産を災害から守り、安全な生活を確保することを基本に、地域防災計画に基づいた防災対策および、防災体制の確立により、災害に強いまちづくりに取り組みます。</p> <p>・降雨災害の多発地域となっている若松町地内にある、既存排水処理場のポンプ設備の追加と排水路改修により処理能力を向上させ、当該地区の水災害をなくし安心できる生活環境整備を行う。</p> <p>・高野工業団地内の降雨災害多発地点において排水設備の改善を行うことにより冠水災害をなくし、工業団地の質を高め優れた工場用地を整備し新たな工場誘致を行う。</p> <p>・市内全地域をカバーする行政防災無線を整備し市民の安心安全を確保し災害にそなえる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・排水機場建設事業(基幹事業) ・高野工業団地線道路排水改修事業(基幹事業) ・防災行政無線整備(基幹事業) ・雨水排水統合計画策定事業(提案事業) ・防災・交流機能施設整備事業(基幹事業) ・防災施設改良事業(基幹事業)
<p>・目標3: 生活交通基盤の整備による市民生活の充実と公共交通機関の利用促進</p> <p>・中条駅の利便性の向上と周辺地域の活力増進を目的としてパークアンドライド自動車駐車場と自転車駐車場を建設し市内外からの新たな人の流れを作り出すことにより地域の活性化を図る。また、駅周辺で行われている民間の土地区画整理事業及び宅地開発事業と連携し公共交通を活用したコンパクトシティの創造と、新潟通勤圏の確立を図り新たな市民の定住促進を図る。</p> <p>・近年の人口は緩やかながら減少を続けており、少子化や高齢化が進んでいる。今後、定住人口を確保し都市の活力を維持していくためには、特に若者の定着や子育てを支援する環境の整備が必要になることから、公園内の施設を整備すると同時に園内の改修を行うことで子供から大人まで利用できる市民憩いのスポットを利用者である住民の声を反映させながら充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日の出保育園線(基幹事業) ・西中央通り線(基幹事業) ・加賀新・駒込線(基幹事業) ・東本町・北本町・本郷町線(基幹事業) ・五輪2号線(基幹事業) ・本郷町線(基幹事業) ・二葉町3号線(基幹事業) ・本郷町望城線(基幹事業) ・東本町・北本町・本郷線(基幹事業) ・柴橋・赤川・総合グラウンド線(基幹事業) ・鴨田・中条江線(基幹事業) ・総合グラウンド快適利用改修事業(提案事業) ・平木田駅前9号線(基幹事業) ・大川町地内(基幹事業) ・東本町・大川町・十二林線(基幹事業) ・加賀新6号線(基幹事業) ・東本町地内(基幹事業) ・加賀新4号線(基幹事業) <ul style="list-style-type: none"> ・中条駅前自転車駐車場整備事業(基幹事業) ・中条駅前自動車駐車場整備事業(基幹事業) ・西中央通り線交差点改修事業(基幹事業) ・近江新平木田停車場線歩道新設事業(基幹事業) ・公園整備改修事業(基幹事業) ・中条北公園整備(関連事業) ・中条駅前通り線整備事業(関連事業) ・融雪システムリフレッシュ事業(提案事業) ・防災・交流機能施設整備事業(基幹事業)
<p>その他</p>	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	1,220	交付限度額	514.0	国費率	0.421
---------	-------	-------	-------	-----	-------

(金額の単位は百万円)

基幹事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費	
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分		
道路	地方道	西中央通り線	胎内市	直	L=24m	H20	H22	H20	H22	19	19	19	0	19
道路	地方道	中条・胎内線	胎内市	直	L=1,600m	H18	H21	H18	H21	58	58	58	0	58
道路	地方道	高野工業団地線	胎内市	直	L=1,770m	H18	H21	H18	H21	218	218	218	0	218
道路	地方道	近江新平木田停車場線	胎内市	直	L=300m	H18	H20	H18	H20	50	50	50	0	50
道路	地方道	日の出保育園線	胎内市	直	L=168m	H18	H18	H18	H18	13	13	13	0	13
道路	地方道	西中央通り線	胎内市	直	L=160m	H18	H18	H18	H18	4	4	4	0	4
道路	地方道	加賀新・駒込線	胎内市	直	L=193m	H18	H19	H18	H19	10	10	10	0	10
道路	地方道	東本町・北本町・本郷町線	胎内市	直	L=320m	H18	H19	H18	H19	12	12	12	0	12
道路	地方道	五輪2号線	胎内市	直	L=250m	H18	H19	H18	H19	10	10	10	0	10
道路	地方道	本郷町線	胎内市	直	L=130m	H18	H19	H18	H19	5	5	5	0	5
道路	地方道	二葉町3号線	胎内市	直	L=60m	H18	H18	H18	H18	1	1	1	0	1
道路	地方道	本郷町望城線	胎内市	直	L=50m	H18	H18	H18	H18	1	1	1	0	1
道路	地方道	東本町・北本町・本郷町線(2)	胎内市	直	L=260m	H18	H19	H18	H19	8	8	8	0	8
道路	地方道	柴橋赤川総合グラウンド線	胎内市	直	L=320m	H18	H21	H18	H21	53	53	53	0	53
道路	地方道	鴨田中条江線	胎内市	直	L=330m	H18	H18	H18	H18	3	3	3	0	3
道路	地方道	平木田駅前9号線	胎内市	直	L=168m	H19	H19	H19	H19	7	7	7	0	7
道路	地方道	大川町地内	胎内市	直	1カ所・L=270m	H19	H20	H19	H20	17	17	17	0	17
道路	地方道	東本町・大川町・十二林線	胎内市	直	L=533m	H19	H19	H19	H19	18	18	18	0	18
道路	地方道	加賀新6号線	胎内市	直	L=44m	H20	H20	H20	H20	1	1	1	0	1
道路	地方道	東本町地内	胎内市	直	1カ所	H20	H20	H20	H20	5	5	5	0	5
道路	地方道	加賀新4号線	胎内市	直	L=27m	H21	H21	H21	H21	1	1	1	0	1
公園		鴻の巣公園	胎内市	直	1カ所	H22	H22	H22	H22	6	6	6	0	6
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設	駐車場	中条駅前自転車駐車場	胎内市	直	A=600㎡	H18	H18	H18	H18	29	29	29	0	29
地域生活基盤施設	駐車場	中条駅前自動車駐車場	胎内市	直	A=2,230㎡	H18	H18	H18	H18	186	46	46	0	46
地域生活基盤施設	地域防災施設	排水機場建設	胎内市	直	ポンプ3基 排水路	H18	H19	H18	H19	68	68	68	0	68
地域生活基盤施設	地域防災施設	防災行政無線整備	胎内市	直	A=710ha	H18	H20	H18	H20	838	356	356	0	356
地域生活基盤施設	地域防災施設	防災・交流機能施設整備事業	胎内市	直	A=11,550㎡	H21	H22	H21	H22	2,600	146	146	0	146
地域生活基盤施設	地域防災施設	防災施設改良事業	胎内市	直	A=830㎡	H21	H21	H21	H21	47	25	25	0	25
高質空間形成施設														
高次都市施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地	拠点開発型													
総合整備	密集住宅市街地整備型													
事業	まちなか居住再生型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計														
										4,288	1,190	1,190	0	1,190

